

鳥取県 JA全農とつとり (梨を台湾、香港、アメリカへ、柿をタイ、台湾へ)



大玉二十世紀梨

鳥取県の二十世紀梨の輸出は70年以上の歴史があり、日本を代表する輸出果実のひとつ。品質の良さが好評で、知名度も高い。

アジアの富裕層をターゲットに、高級果実として大玉の梨を輸出。特に、台湾では中秋節や旧正月の贈答用品として定着。

【平成19年産 輸出量】

○梨 894トン(台湾505トン、香港100トン、中国7トン、米国(ハワイ含む)276トン、他6トン)※JA全農とつとり取扱量に占める輸出比率約7%
○柿 64トン(タイ60トン、台湾4トン)

※JA全農とつとり取扱量に占める輸出比率約5%

【販売戦略、工夫した点等】

- ・高い剪定技術等により、徹底的に品質を重視し、大玉の梨販売へと戦略転換。
- ・氷温貯蔵庫を導入し、長期保存を可能に。東南アジアでの梨の需要期である中秋節が、二十世紀梨の出荷時期より早く来る年にも対応できるようにし、また販売期間を旧正月まで延長。
- ・あたご梨の輸出にも取り組むなど、二十世紀梨のブランドイメージを生かした商品の多角化を図っている。

【輸出によるプラスの効果等】

- ・検疫のための高度な管理が求められることにより、栽培管理のレベルアップに結びついている。
- ・鳥取が積極的に輸出を行うことにより、国内の梨市場も活性化。

